



コロナ禍と台風ゼロの特別の年

二宮町茶屋海岸

令和2年は多くの方にとって特別な年だったと思います。美化財団では二つの点で特別でした。

まず、一つが海岸へのコロナ禍の影響です。神奈川県は、春には立ち入りの自粛が呼びかけられ、夏には、海水浴場が開設されませんでした。これまで体験したことのないストレスがかかる日々の中で、癒しの場所として、多くの方にとって、海岸がなくてはならないものとなりました。



藤沢市鶴沼海岸

そうした海岸を守る私たちが目指したことは「いつもと変わらないこと」です。海岸

への立ち入り自粛期間であっても、清掃を止めることはありませんでした。海水浴場が開設されなくても、夏の江の島周辺や鎌倉などの海岸は、毎日、夜明けと共に清掃を開始しました。いつも通りのことです。



酷暑の中での清掃 二宮町梅沢海岸

いつもと変わらない美しい海岸が人々を癒し、それを守るため、いつもと変わらない仕事を粛々と進めてきた期間であったといえます。

もう一つ特別だったことは台風が上陸しなかったことです。

これは12年ぶりで非常に珍しいことでした。その影響で、海岸は、秋から年末まで非

常にきれいな状態が続きました。前年の同じ頃は、過去最強クラスだった台風19号が直撃した影響で、相模湾沿岸がごみだらけになり、年が明けてもその片づけに追われたのを思い出すと、海岸ごみがいかに自然の影響を大きく受けるか分かります。

令和2年は、普段手が回らない海岸や細かな清掃を全面的に実施でき、近年稀にみる美しい海岸を維持できました。

ここでおさえておくべき点は、海岸にごみが少ない、イコール、ごみが減ったわけではないということです。それらは、海岸まで流れてこないだけに過ぎません。海岸のごみの7割が陸域から川を通じて流れてきます。つまり、海岸にごみが無い分、それらは陸域に溜まり続けているということです。

年が明けて令和3年が始まって、天気は安定し、海岸はキレイなままでした。しかし、ついに状況が一変する日がやってきました。

次頁「春の嵐襲来！」へ続きます。

春の嵐襲来！



2月15日、遂に恐れていた日がやってきました。

発達した低気圧が本州の南岸を通過し、北上しながらさらに発達し台風並みの勢力になりました。この影響で関東は大荒れの天気となり、海岸には、

これまで陸域に溜まりに溜まっていたごみが一気に打ちあがりました。

それまでのごみ一つない砂浜が一変。ペットボトルなどの人工ごみが混じる木くずに覆われてしまいました。

特にひどかった、葉山町長者ヶ崎海

岸～森戸海岸、逗子市逗子海岸、鎌倉市材木座～七里ヶ浜・腰越海岸、藤沢市片瀬東浜・片瀬西浜・鶴沼海岸、真鶴町真鶴海岸で延べ40日間の緊急清掃を実施しました。

海岸清掃車両贈呈式を開催しました



神奈川県と横浜銀行様は、2018年12月に「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結し、地域経済を担う県内中小企業への経営アドバイス・情報提供や神奈川県との協働施策を進めています。横浜銀行様はその一環で2019年10月より「SDGsフレンドローン」を取り扱っています。

12月8日、「SDGsフレンドローン」

が多くの方に利用されたことを記念して横浜銀行様から当財団にご寄附いただいた寄付金によって購入した海岸清掃車両の贈呈式を開催しました。

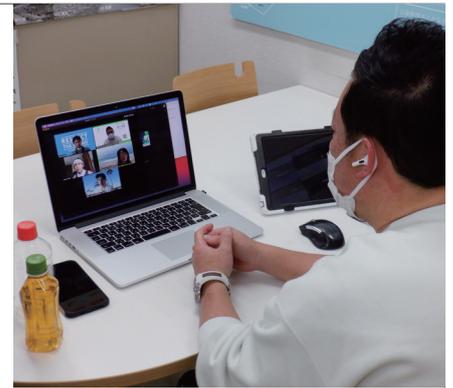
この新しい車両を使用させていただき、これまで以上に海岸美化活動に取り組んでいきます。

ありがとうございました。

クギが大量に出てきました



2月19日、藤沢市片瀬東浜では、それまで吹き荒れていた南西風によって表層の砂が飛ばされ、砂の中から釘が大量に出てきました。これは夏の海の家の解体時に出たモノと思われます。古い釘もありますが、何年も経過しているようには見えない新しい釘も目立ちました。二人で15分間で74本も回収し、その後もボランティアの協力も得て、取れる範囲のクギはすべて回収しました。



オンライン交流会を開催しました

3月13日(土)にオンライン交流会(令和2年度海岸美化団体等交流会)を開催し140名の参加がありました。

交流会は、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を考慮して、直前で中止とせざるを得ませんでした。そして、今年も感染拡大が続き、緊急事態宣言が発令されている中で、初めての試みとして、交流会をZOOMを利用してのオンラインで開催しました。

交流会は二部制で、第一部は、海岸清

掃団体 湘南ウキブイ代表の熊沢博樹さんの「ビーチクリーン×テクノロジーの可能性」と題した講演からスタート。若い世代や企業がこぞって参加する人気ビーチクリーンを支えるテクノロジー活用術について分かりやすく解説していただきました。

次の現役高校生である松木工哉さんによる「マイクロプラスチック採取道具『すなふる』を作ってみた」と題した活動発表では、3Dプリンタで作った道具の

完成度の高さに多くの方が感嘆していました。

続いて、一般社団法人プロギングジャパン会長の常田栄一朗さんに「地球が綺麗になるのはオマケ？ スウェーデン発のNewフィットネス『プロギング』」と題した活動発表をしていただきました。

第二部は、6つの小部屋に分かれて、オンラインならではの、普段なかなか会うことができない方との交流を図ることができました。

オリジナルコットンバッグをご協賛いただきました

湘南電力株式会社様より、オリジナルコットンエコバッグを1000個ご協賛いただきました。ありがとうございました。

色はネイビーとナチュラルの2色で、「NO BEACH NO LIFE」のメッセージもおしゃれな仕上がりになっています。

今後、イベントで配布したり、ビーチクリーンをお申込みの方へのプレゼントキャンペーンを実施したりする予定です。



個人ボランティアが大幅に増えました

近年の神奈川県の間年ビーチクリーンボランティア数は、定期が5万人、随時が11万人になります。しかし、今年度はコロナ禍の影響で随時ボランティア数は2万人程度に減少する見込みです。

これは、企業や大人数のビーチクリーンが軒並み中止となったことが原因です。一方で、大幅に増えたのが個人ボランティア。「ひとりならソーシャルディスタンスも取れるし、やるよ!」と、本当にたくさんの方が声をかけてくださり、大きな力となりました。



桜美林大学インターンシップを受け入れました



3月1日から3月5日までの5日間、桜美林大学からインターンシップ生2名の受入れを行いました。

学生2名は、財団職員とともに2トントラックに乗って、海岸パトロールに出かけ、ごみの漂着状況を確認したり、実際に清掃したりして実践的な仕事を体験しただけでなく、美化啓発展示のために海で落ちているプラスチックごみを使ってアートした「プラごみパネル」も作成しました。